

緑化センター みにがいど

No.10

スマートでさえずりが 上手なメジロ



メジロは黄緑色のスズメよりも小さな野鳥で、行動は敏捷や絶えず活発に枝から枝に移ります。広葉樹の森や林が好きで、深い山の森だけでなく公園の樹木、民家の庭木にまでやってきて、普段は「チー、チー」と

細く高い声で鳴き交わしながら仲間や番(つがい)でいることが多い小鳥です。薄い黄緑色の胸と濃い緑色背中に、眼の周囲の白色が可愛らしく、そのスマートさとさえずりのよさで江戸時代の昔から愛玩鳥とされてきました。山で聞くさえずりはこれがメジロだと説明されないと判断できないほど高調子でよく響きますが、南方に棲むものほど声に張りがあって高調子が続くと言われています。

メジロ メジロ科

メジロは梅雨が始まる頃、人家の庭木、常緑の中低木、時としてタケの梢などにコケや草の根、獣の毛を多用しクモの糸でまとめ、ハンモックのように吊り下げた茶碗くらい(直径6~9cm)の巣を造る。産卵は4~5個くらい。雌雄交代で抱卵し、ヒナは細い産毛がある。夜はヒナの体温を保つため親鳥が巣の上にかぶさるように乗って抱いている。親鳥が昆虫の幼虫、シャクトリガやヒラタムシ、アオムシなどを給餌する。成長して巣が狭くなるとまだ満足に飛べないヒナが枝伝いに出てしまうことがあり、外敵にねらわれやすいのもこの頃である。秋から冬にかけては群をなして移動する様子が見られる。虫の少ない季節はウメドキ、カキ、ヌルデの実なども採食する。甘い実や花の蜜が好物で、冬から春にかけて花に集まることが多い。

現在は、捕獲や飼育には許可が必要です。

文と写真 吉見良一氏 03.4.2 撮影

コーヒーで一息入れませんか
緑化センター レストハウス